

八戸、百石地先のホッキガイ浮遊幼生調査

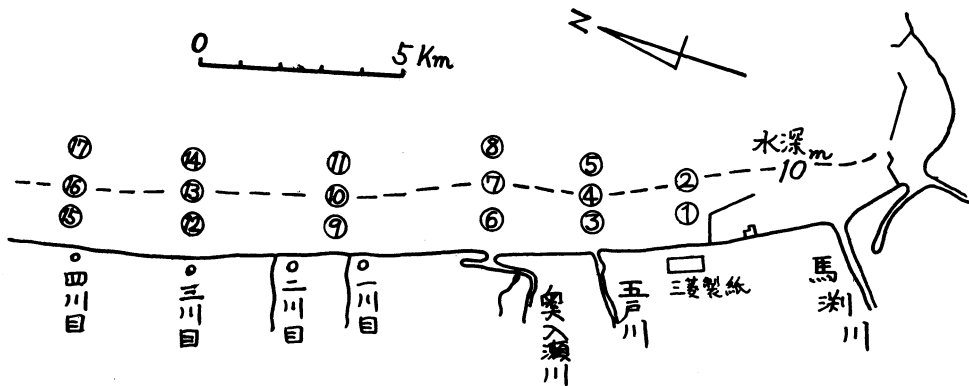
横山 勝幸・川村 要・小川 弘毅・高橋 克成
田村 勲(青森県水産業改良普及員、八戸市駐在)

はじめに

ホッキガイの浮遊幼生調査は、昨年初めてプランクトンネットの垂直曳きにより試みたが、参考となるデータを得ることはできなかった。本年度は、採水器による層別の採集を試みるとともに、後述の稚貝発生場探索の資料とすることを目的に行なった。なお、調査にご協力いただいた八戸市漁業協同組合にお礼申し上げる。

調査方法

調査点(第1図)は、水深14m, 10m, 6mを基準にして設定し、水深5m層と底層(底上1m)より採水した(水深6m点では水深5m層のみ)。採水はメッセンジャー方式の採水器を使用して各層より10回の採水(採水量合計0.85ℓ)を行ない、100μのプランクtonネットでろ過し、ホルマリン固定して持ち帰り検鏡した。



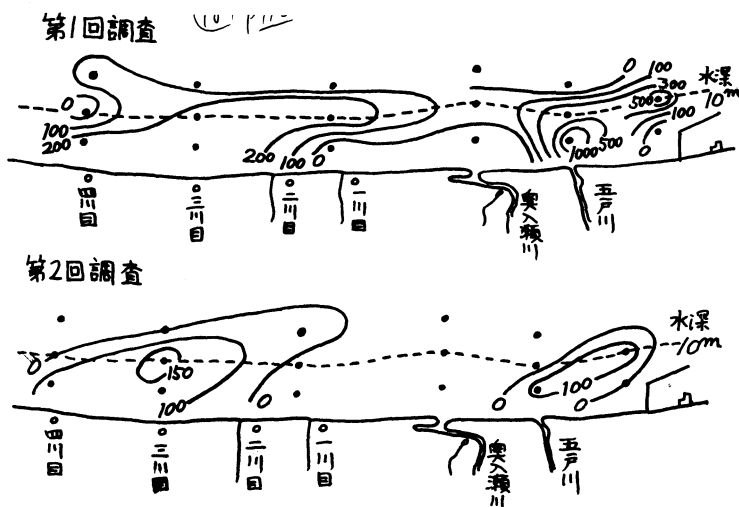
第1図 昭和47年度ホッキガイ浮遊幼生調査点

調査結果および考察

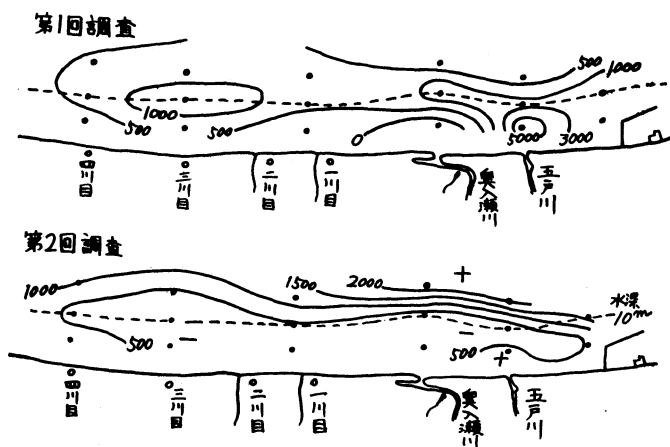
調査は、6月13日～14日(第1回)と6月21日～22日(第2回)に行ない、調査結果は各調査点の5m層と底層を平均して1ℓ当りに換算し、第2図に示した。また、同時に採集されたホッキガイ以外の二枚貝類の浮遊幼生(種不明)の分布を同様にして第3図に示した。

ホッキガイの浮遊幼生は両調査共に良く似た分布を示し、五戸川沖に第1の中心があり、二川目から三川目沖にかけて第2の中心があるように思われる。また、ホッキガイ以外の二枚貝類の浮遊幼生の分布と比較してみると、第1回調査では類似の傾向を示したが、第2回調査では逆の傾向を示した。

いずれにしても、今回の調査は採水量が少いため十分信頼できる結果とはなり得ず、今後は、ホタテガイやアカガイの浮遊幼生調査と同様に、ウイングポンプによる採水方法を取るべきと考える。



第2図 ホッキガイ浮遊幼生の分布(個/ℓ)



第3図 ホッキガイ以外の二枚貝類浮遊幼生の分布(個/ℓ)